

第4回中空知広域水道企業団水道事業ビジョン策定検討会議 議事概要

開催日時 平成30年9月19日(水) 13:56~15:05

開催場所 滝川市まちづくりセンター 会議室A

出席委員 峯村委員長、高村副委員長、中口委員、河端委員、加藤委員、山崎委員、小林委員、山委員

出席助言者 保坂助言者、松原助言者

出席事務局職員 加藤企業局長、児玉工務課長、横山営業課長、吉尾工務課副主幹、桜井営業課副主幹、金子営業課副主幹、加地滝川営業所長、岩崎砂川営業所長、大津奈井江営業所長、山田歌志内営業所長、早坂工務課主査、松本営業課担当

配布資料 会議次第(別紙1)

水道事業ビジョン冊子及び概要版の原案について(別紙2・3)

1 開会 委員長

委員長の許可を得て企業局長から9月6日発生の北海道胆振東部地震及びその後の全道的な大規模停電に対する企業団の対応状況について、口頭で説明があった。

2 議題 進行：峯村委員長

(1) 水道事業ビジョン冊子及び概要版の原案について

事務局より説明

説明資料「水道事業ビジョン冊子(案)及び概要版(案)」(別紙2・3)

委員1：水道事業ビジョンの概要版については、どこまで公開する予定なのか。

事務局1：概要版については、ホームページ等で公開し、パブリックコメントという形で一般の方にも見ていただいた上で、確定をしていきたいと考えている。

委員2：概要版の目標設定と実現方策で安全の項目1、適切な水質管理及び水質検査の実施の中の(3)「水安全計画」に基づく適正な水質管理」とあるが、言葉のあやではあるが、「水質管理の実施」にしてはどうか。また、安全の項目2、給水装置に関する安全性の確保の中の(1)「水道利用者による適正な給水装置の管理」とあるが、「給水装置の維持管理」としてはどうか。それから同じ項目の(2)「指定給水装置工事事業者への指導及び定期的な講習の実施」とあるが、「指定給水装置工事事業者への適切な指導と定期的な講習の実施」にした方がよろしいと思う。

次に、現状と課題で強靱の項目3の「災害・事故発生時における危機管理体制の整備」とあるが、「整備」ではなく「強化」の方がいいと思う。また、目標設定と実現方策で強靱の項目3、危機管理体制の構築の中の(2)「災害時等における迅速な復旧体制の構築」とあるが、「災害時等における適切かつ迅速な復旧体制の強化」にしてはどうか。既に構築はされていると思う。それから強靱の効果の部分で「被災」と

いう文言があるが、「災害」にした方が文章としてはいいと思う。

次に、目標設定と実現方策で持続の項目1、水道施設・管路の効率的・効果的な更新の(1)「浄水場施設更新及び修繕計画」による適切な更新」とあるが、本編の中でも「基づく」という文言を使っていることから、「浄水場施設更新及び修繕計画」に基づく適切な更新」にしてはどうか。また、持続の項目2、財政収支の健全性の確保の(1)「経営戦略」による財政収支の進行管理」とあるが、「経営戦略」に基づく財政収支の適切な管理」にしてはどうか。また、持続の項目3、人材育成及び組織力の維持・向上の(1)「知識・技術力の向上・共有のための研修等の充実」とあるが、「充実」ではなく、「実施」にしてはどうか。それから同じ項目の(2)「適切な組織体制の構築」とあるが「構築」は既にされていると思うため、「強化」にしてはどうか。また、次の項目4の水道利用者との情報共有の中の(2)「災害、事故等に関する情報周知体制の確立」とあるが、「確立」を「充実・強化」にしてはどうか。以上、全て個人的な見解として、全体を見た中で分かりやすいと考える。

事務局2：内容を細かく見て、ご指摘いただいたことに感謝申し上げます。ご指摘いただいたところは、文言の前後の表現や冊子の部分等でも影響のある表現があるため、全てご指摘のとおり改正できない部分等もある。一度、事務局で預からせていただきたい。

委員3：本編の中で耐震診断結果において送配水施設の詳細診断については、現在実施中となっているが、診断結果は、このビジョンの中に反映されないのか。

事務局3：水道事業ビジョンと耐震診断については、タイミングが合わなかった部分があり、前回の検討会議の中でも申し上げたとおり、耐震診断事業については平成31年度に入ってようやく結果が見えてくるため、ビジョン上では結論は出すことができず、その結果は耐震化計画に反映していく。本編2ページの図1-1のとおり、新計画の「水道施設耐震化計画」は平成32年度策定予定となっており、この計画に個別計画として反映していく予定となっている。

3 その他

委員長から、今回委員の皆様いただいた意見を踏まえ、原案については事務局の方で修正を加えていただくが、大きな変更はないものと判断し、今回の第4回検討会議をもって検討会議を終了することとしたい旨の提案と修正内容については委員長と副委員長で確認させていただき、後日、議論経過も含めて、委員長と副委員長で企業長に報告することとしたい旨の提案があり、異議なしとして決定された。

委員長挨拶

不慣れな者がこのような大きな計画を立てる会議に参画をして、委員長という重責をいただいた。

皆様の心強い、ご支援とご協力の下、今日を迎えることができたことに、心から感謝申し上げます。

副委員長挨拶

今回、水道事業ビジョン（案）ということで最終的な取りまとめを行うことができ、委員の皆様をはじめ、助言者の皆様、さらには事務局の皆様方のご尽力の賜物であり、厚くお礼申し上げます。

今後については、委員長と私で企業長へ水道事業ビジョン（案）の報告を行うことになっている。この案が良い形で実現されていくことをご祈念申し上げ、皆様のご協力に心から感謝申し上げます。

企業局長お礼の挨拶

企業長に代わり、私からお礼申し上げます。

今回、委員長をはじめとする構成3市1町からの8名の委員の皆様方、また、助言者の2名の方を加え、6月18日の第1回検討会議から数えて4回の会議にご参加いただき、併せて、積極的な議論を重ねていただいたことに対し、厚くお礼申し上げます。

お陰様で、「中空知広域水道企業団水道事業ビジョン」については、皆様のご尽力により、今後の当企業団の10年間の方向性を示す基本方針として、立派なビジョンとなったと確信している。

この検討会議の間、6月の大阪府北部地震、7月の西日本を中心とした豪雨災害、8・9月の台風災害、それから今回の胆振東部地震及びその後の北海道全域大停電等、非常に大きな災害が続き、その中でライフラインの重要性について、改めて認識されたのではないかと思います。

この「水道事業ビジョン」については、「中空知の未来を守り 育てる広域水道」を基本理念としているが、企業団として、「安全」・「強靱」・「持続」、それぞれの課題解決、目標実現に向けてまい進し、また、「PDCAマネジメントサイクル」による進捗管理も含めて、「未来を守り 育てる水道事業」を実施していきたいと考えている。

今後は、委員長・副委員長の企業長への報告、理事者・議会への中間報告、パブリックコメントの募集等を経て、来年2月には、正式な水道事業ビジョンとして策定・公表する予定となっているが、皆様方におかれても、今後とも水道事業への深いご理解とご指導を賜りたく、改めてお願い申し上げます。

以上、簡単ではあるが、委員の皆様、助言者の皆様へのお礼の挨拶に代えさせていただきます。

4 閉 会 委 員 長